

- (1) 正解②: since は起点、for は期間の長さ、during は期間・出来事の間[解説] since は「いつから」という継続の起点を表し、since 2020 / since Monday のように用います。for は「どのくらいの間」という期間の長さを表し、for three years / for two hours のように用います。during は「～の間に」という特定の期間・出来事の間を表し、during the summer / during the meeting のように用います。したがって、since = 起点 / for = 期間の長さ / during = 特定の期間・出来事の間と整理します。
- (2) 正解②: 現在進行形[解説] study・work・play などの動作動詞で、現在を中心として一時的に行われている動作を表す場合は現在進行形を用います。現在進行形は〈be + V-ing〉の形をとり、I am studying English now. 「私は今、英語を勉強している」のように表します。一方、I study English every day. のように、現在の習慣・反復を表す場合は現在形を用いるのが基本です。したがって、現在の習慣・反復 = 現在形 / 現在の一時的な動作 = 現在進行形と区別します。
- (3) 正解①: have died は出来事の完了、have been dead は状態の継続[解説] die は「死ぬ」という瞬間的な変化を表すため、have died は「死んだ」という出来事の成立・完了を表します。一方、dead は「死んでいる」という状態を表す形容詞なので、have been dead はその状態が現在まで続いていることを表します。したがって、「彼が亡くなって5年になる」は He has been dead for five years. のように状態の継続で表します。瞬間的な出来事を一定期間の継続として表す場合は、その結果として続く状態に言い換えることが重要です。
- (4) 正解③: 過去形[解説] When ～? 「いつ～」で過去の出来事を尋ねる場合は、その出来事が起こった具体的な過去の時点を問題にしています。現在完了は過去の出来事を現在との関係からとらえるため、原則として過去の具体的な時点を尋ねる表現とは結びつきません。したがって、「いつ京都を訪れましたか」は When did you visit Kyoto? のように過去形を用います。When ～? = 過去の時点を尋ねる → 原則として過去形という関係を押さえておきます。
- (5) 正解①: know, belong, resemble, like[解説] 状態動詞とは、具体的な動作ではなく、認識・所属・類似・感情・所有などの状態を表す動詞です。know「知っている」・belong「所属している」・resemble「似ている」・like「好む」は、いずれも状態を表します。一方、study・work・run・cook・write などは、時間の中で行われる具体的な動作・行為を表す動作動詞です。したがって、状態動詞

だけで構成されている① know, belong, resemble, like が正解です。

- (6) 正解①:現在完了[解説]already「すでに・もう」を用いて、ある動作が現在より前に完了していることを現在との関係から述べる場合は現在完了を用います。現在完了は〈have + 過去分詞〉の形をとり、過去の出来事を単なる過去ではなく現在とのつながりからとらえます。たとえば I have already finished my homework. は「私はもう宿題を終えた」という意味になります。したがって、already + 現在までの完了 = 現在完了という関係を基本として押さえます。
- (7) 正解③:現在まで続いているか、過去で終了しているかを確認する[解説]for three years のような〈for + 期間〉があるからといって、必ず現在完了になるわけではありません。I have lived here for three years. なら、その3年間は過去から現在まで続いているため現在完了を用います。一方、I lived there for three years. なら、その3年間は過去の中ですでに終了しているため過去形を用います。したがって、for を見て機械的に判断せず、その期間が現在を含むかどうかを確認することが重要です。
- (8) 正解②:すでに予定・手配されている近い未来[解説]go・come・leave・arrive などの往来発着動詞は、現在進行形によって予定・手配された近い未来を表すことがあります。たとえば I am leaving for Tokyo tomorrow. は「私は明日東京へ出発する予定だ」という意味になります。この場合は単なる未来の予測ではなく、発話時点ですでに予定や手配が決まっていることを表すのが基本です。したがって、往来発着動詞 + 現在進行形 = 予定・手配された近未来という用法を押さえておきます。
- (9) 正解③:現在完了[解説]How many times ～? で、「これまでに何回～したことがあるか」という現在までの経験・回数を尋ねる場合は現在完了を用います。たとえば How many times have you been to Kyoto? は「これまでに何回京都へ行ったことがありますか」という意味です。一方、last year など終了した過去の特定期間における回数を尋ねる場合は、How many times did you ～? と過去形を用います。したがって、現在までの回数 = 現在完了 / 終了した過去の期間の回数 = 過去形と区別します。
- (10) 正解③:状態・感情・所有・認識などを表す動詞[解説]状態動詞とは、具体的な動作・行為ではなく、人や物がある状態にあることを中心に表す動詞です。代表例には know「知っている」、like「好む」、belong「所属する」、have「持っている」などがあります。これに対して study・run などは動作動詞、arrive・die などは一瞬の出来事・変化を表す瞬間動詞です。したがって、状態・感情・所有・

認識などを表す③が状態動詞の説明として最も適切です。

- (11) 正解③:現在を基準として「今から～前」を表し、原則として過去形を用いる[解説]ago は現在を基準として、「今からどのくらい前か」という過去の時点を表す語です。たとえば three days ago は「今から 3 日前」であり、現在まで続いている期間ではなく過去の特定時を示します。そのため I met him three days ago. のように、ago を含む文では原則として過去形を用います。したがって、ago=現在を基準として過去へさかのぼる表現 → 過去形と整理します。
- (12) 正解④:have been+V-ing[解説]study・work・wait などの動作動詞で、過去に始まった動作が現在も続いていることを強調する場合は現在完了進行形を用います。現在完了進行形は〈have been+V-ing〉の形をとり、「ずっと～し続けている」という動作の継続を表します。たとえば I have been studying English since April. は「4 月からずっと英語を勉強している」という意味です。したがって、動作動詞+since+現在までの継続=have been+V-ing が基本となります。
- (13) 正解①:never は「一度も～ない」、not は一般的な否定[解説]never は「一度も～ない・決して～ない」という意味で、経験や頻度そのものを否定する語です。たとえば I have never seen the movie. は「私はその映画を一度も見たことがない」という意味になります。一方、not は単に「～ない」という一般的な否定を表し、それ自体に「一度も」という意味はありません。したがって、never =not ... ever「一度も～ない」/not=一般的な否定と区別します。
- (14) 正解①:進行中／一時的／変化の途中／近い未来の予定[解説]現在進行形の中心的な意味は、現在を中心とする限られた時間の中で物事が進行していることです。そこから、「今している動作」だけでなく、一時的な動作・状態や、ある状態へ向かっている変化の途中も表します。さらに I am leaving tomorrow. のように、すでに予定・手配されている近い未来を表すこともできます。したがって、進行中の動作／一時的な状況／変化の途中／近い未来の予定を含む①が正解です。
- (15) 正解③:現在完了[解説]before「以前に」を用いて、「これまでに以前～したことがある」という現在までの経験を述べる場合は現在完了を用います。たとえば I have seen him before. は「私は以前彼に会ったことがある」という意味になります。ただし、before そのものが必ず現在完了を要求するわけではなく、文脈によって過去形や過去完了とも用いられます。したがって、before+現在までの経験という文脈=現在完了と判断することが重要です。

- (16) 正解③:一瞬で成立・完了するととらえられる出来事や状態変化を表す動詞  
[解説]瞬間動詞とは、出来事や状態変化がある瞬間に成立するととらえられる動詞です。arrive「到着する」、die「死ぬ」、begin「始まる」、finish「終わる」などが代表的な瞬間動詞です。たとえば arrive は「到着する」という出来事が長時間継続するのではなく、到着した時点で成立すると考えます。したがって、瞬間動詞は時間的な幅よりも出来事が成立する点・変化点に焦点を置く動詞です。
- (17) 正解③:yesterday は過去、since yesterday は過去から現在まで[解説]  
yesterday は「昨日」という、現在とは切り離された終了した過去の特定期間を表すため、原則として過去形を用います。一方、since yesterday は「昨日から現在まで」と、昨日を起点として現在まで続く時間の広がりを表します。したがって I was busy yesterday. に対して、I have been busy since yesterday. のように時制が異なります。yesterday = 過去だけ / since yesterday = 過去の起点から現在までという時間関係を区別します。
- (18) 正解①:have opened は出来事の完了、have been open は状態の継続  
[解説]have opened の open は動詞であり、「開く・開ける」という出来事が成立・完了したことを表します。一方、have been open の open は形容詞で、「開いている」という状態が現在まで続いていることを表します。つまり、have opened は出来事・変化の完了、have been open はその結果として生じた状態の継続に焦点があります。したがって、have opened = 出来事の完了 / have been open = 状態の継続と区別します。
- (19) 正解③:反復・習慣がいつに属するかを確認して時制を決める[解説]often は「しばしば」という動作・出来事の頻度を表しますが、それ自体が特定の時制を決定するわけではありません。現在の習慣なら I often walk there.、過去の習慣なら I often walked there. のように時制が変化します。重要なのは often があるかどうかではなく、その反復・習慣が現在・過去・未来のいつに属するかという点です。したがって、頻度副詞だけで判断せず、文全体の時間関係から時制を決定する③が正解です。
- (20) 正解①:go, come, leave, arrive[解説]往来発着動詞とは、人や物の移動・出発・到着などを表す動詞のことです。go「行く」、come「来る」、leave「出発する」、arrive「到着する」は、いずれも代表的な往来発着動詞です。これらの動詞は現在進行形にすると、現在進行中の移動だけでなく、予定・手配された近い未来を表すこともあります。したがって、往来発着動詞だけで構成されている① go, come, leave, arrive が正解です。

- (21) 正解①: have + 過去分詞[解説] yet を「もう～しましたか」「まだ～していません」の意味で用いる場合は、現在までの完了・未完了を問題にしています。そのため Have you finished yet? 「もう終わりましたか」のように、現在完了〈have + 過去分詞〉とともに用いるのが基本です。否定文でも I haven't finished yet. 「私はまだ終わっていない」のように、現在完了とともに用いることができます。したがって、yet = 現在までの「もう／まだ」→ have + 過去分詞という関係を押さえます。
- (22) 正解①: 現在形[解説] How long ～? が使われていても、必ず過去から現在までの継続期間を尋ねているとは限りません。How long does it take to get there? のように、普段の所要時間・通常の期間を尋ねる場合は現在形を用います。一方、How long have you lived here? なら、過去から現在までの継続期間を尋ねているため現在完了になります。したがって、普段の期間・所要時間 = 現在形／現在までの継続期間 = 現在完了系と区別します。
- (23) 正解①: 瞬間動詞が表す出来事自体の継続を for / since では原則として表せない[解説] arrive・die・begin・finish などの瞬間動詞は、一瞬で成立するととらえられる出来事・状態変化を表します。そのため、その出来事そのものを for five years などで「5年間ずっと」と継続させることは原則としてできません。「5年間死んでいる」なら has died for five years ではなく、has been dead for five years と状態に言い換えます。したがって、瞬間的な出来事の継続は、その結果として続く状態に言い換えることが重要です。
- (24) 正解①: 習慣・状態・一般的事実・一般論・確定未来[解説] 現在形は、現在を含めて安定して成立している事柄を表すのが基本的な性質です。そのため、現在の習慣・反復、現在の状態、一般的事実・真理、一般論などを表すことができます。さらに The train leaves at seven tomorrow. のように、時刻表・予定表などですでに確定している未来にも用いられます。したがって、習慣・状態・一般性・確定未来をすべて含んでいる①が正解です。
- (25) 正解②: 過去形[解説] once・twice・three times などの回数表現があっても、回数表現そのものが時制を決めるわけではありません。I visited Kyoto three times last year. なら、終了した過去の特定期間内の回数なので過去形を用います。一方、I have visited Kyoto three times. なら「これまでに3回」という現在までの経験なので現在完了です。したがって、回数を数えている時間の範囲が現在を含むかどうかによって時制を判断します。
- (26) 正解①: have + 過去分詞[解説] know・have・be などの状態動詞は、状態

そのものを表すため、原則として進行形にはしません。過去に始まった状態が現在まで続いている場合は、現在完了〈have + 過去分詞〉によってその継続を表します。たとえば I have known him since 2020. は「2020 年から現在まで彼を知っている」という意味になります。したがって、状態動詞 + since + 現在までの継続 = have + 過去分詞を基本とします。

- (27) 正解②: yesterday は過去の特定時なので現在完了とは原則として併用しない[解説]現在完了は、過去の出来事を現在とのつながりをもつものとしてとらえる時制です。一方、yesterday・last week・two days ago などは、現在とは切り離された終了した過去の特定時を表します。そのため × I have lost my wallet yesterday. ではなく、I lost my wallet yesterday. と過去形を用います。したがって、現在完了 + 終了した過去の特定時を表す表現は原則として併用しないと理解します。
- (28) 正解②: 未来進行形[解説]未来のある時点で、「～しているところだろう」という一時的に進行中の動作を表す場合は未来進行形を用います。未来進行形は〈will be + V-ing〉の形をとり、未来の基準となる時点で動作の途中にいることを表します。たとえば This time tomorrow, I will be flying to Tokyo. は「明日の今ごろ東京へ向かっているだろう」という意味です。したがって、未来のある時点 + 進行中の動作 = will be + V-ing と整理します。
- (29) 正解③: arrive, die, begin, finish[解説]瞬間動詞は、時間的な幅のある動作ではなく、ある瞬間に出来事・変化が成立するととらえられる動詞です。arrive「到着する」、die「死ぬ」、begin「始まる」、finish「終わる」は、いずれも出来事の成立点を表します。一方、study・work・wait・play などは動作動詞、know・belong・resemble・possess などは状態動詞です。したがって、瞬間動詞だけで構成されている③ arrive, die, begin, finish が正解です。
- (30) 正解③: just は現在完了、just now は過去形が基本[解説]本教材では、just「たった今」が現在との関係から直前の完了を表す場合は現在完了を基本とします。たとえば I have just finished my homework. は「私はたった今宿題を終えた」という意味になります。一方、just now「ついさっき」は過去の時点としてとらえ、I saw him just now. のように過去形を用います。したがって、基本的には just + 現在完了 / just now + 過去形という違いを押さえます。
- (31) 正解②: 過去の起点から現在まで続く時間を表す[解説]since + 過去の時点は、「その時から」という継続の起点を示す表現です。現在完了とともに用いる場合、その過去の起点から現在まで状態・動作が続いているという時間関係を表し

ます。たとえば I have lived here since 2020. は「2020 年から現在までここに住んでいる」という意味です。したがって、since＝過去の起点 → そこから現在までの時間的な広がりと理解します。

- (32) 正解②: have gone to は行って今ここにいない／have been to は訪問経験[解説] have gone to ～ は「～へ行ってしまった」という意味で、原則としてその人が現在ここにいないことを表します。一方、have been to ～ は「～へ行ったことがある」という、現在までの訪問経験を表すのが基本です。He has gone to London. と He has been to London. では、過去にロンドンへ行った後の現在の状況が異なります。したがって、have gone to＝行った結果／have been to＝訪問した経験と区別します。

- (33) 正解④: have been + V-ing[解説] study・work・wait などの動作が過去に始まり、現在まで途切れず続いていることを強調する場合は現在完了進行形を用います。現在完了進行形は〈have been + V-ing〉の形をとり、一定期間にわたる動作の継続そのものに焦点を置きます。たとえば I have been waiting for two hours. は「私は 2 時間ずっと待っている」という意味になります。したがって、動作動詞 + for + 現在までの継続 = have been + V-ing が基本です。

- (34) 正解①: ago は現在が基準、before は文脈上のある時点が基準[解説] ago は現在を基準として、「今から～前」という過去の時点を表します。たとえば three years ago は「今から 3 年前」という意味で、原則として過去形とともに用います。一方、before は「以前に・ある時点より前に」を表し、その基準となる時点は文脈によって現在にも過去にもなります。したがって、ago＝現在が基準／before＝文脈上の基準時点より前という違いを押さええます。

- (35) 正解③: 過去進行形[解説] 過去のある時点で、一時的に進行中であった動作を表す場合は過去進行形を用います。過去進行形は〈was / were + V-ing〉の形をとり、過去の基準となる時点で動作の途中だったことを示します。たとえば I was studying English at eight last night. は「昨夜 8 時には英語を勉強していた」という意味です。したがって、過去のある時点 + 進行中の動作 = was / were + V-ing と整理します。

- (36) 正解①: 現在形[解説] How many times ～? が、現在までの経験ではなく、現在の習慣として普段何回行うかを尋ねる場合は現在形を用います。たとえば How many times a week do you exercise? は「週に何回運動しますか」という現在の習慣を尋ねています。一方、「これまでに何回～したことがあります

ますか」と現在までの経験回数を尋ねる場合は現在完了を用います。したがって、現在の習慣的回数＝現在形／現在までの経験回数＝現在完了と区別します。

- (37) 正解②: 出来事・変化がすでに成立・完了している[解説] arrive・die・begin などの瞬間動詞は、一瞬で成立するととらえられる出来事・状態変化を表します。これを現在完了にしても、その瞬間的な出来事そのものが過去から現在まで継続するという意味にはなりません。たとえば He has arrived. は「彼は到着した」と、到着という出来事がすでに成立・完了したことを表します。したがって、瞬間動詞＋現在完了＝出来事・変化の成立・完了を表すのが基本です。
- (38) 正解②: 期間が過去から現在まで広がり、現在を含んでいる[解説] for＋期間を現在完了系とともに用いる場合、その期間が過去だけで終了せず、現在まで続いていることが重要です。I have lived here for five years. なら、5年間という期間が過去に始まり、発話時である現在まで広がっています。一方、過去の中で終了した期間なら I lived there for five years. のように過去形を用いることができます。したがって、現在完了系の for＋期間＝過去から現在までを含む期間と考えます。
- (39) 正解④: Five years have passed since he has died.[解説] <It has been ～ since ...>や<～ have passed since ...>では、since 節は継続の起点となる過去の出来事を表します。そのため、「彼が死んだ」という過去の出来事は since he died のように過去形で表すのが基本です。① Five years have passed since he died.、② He has been dead for five years.、③ It has been five years since he died. は正しい表現です。したがって、since 節を he has died と現在完了にした④が、この設問では正しくないものとなります。
- (40) 正解③: 反復・習慣が属する時を基準として時制を決める[解説] usually・often・sometimes などの頻度副詞は、動作がどの程度繰り返されるかを表す語です。現在の習慣なら現在形、過去の習慣なら過去形というように、その習慣がいつのことかによって時制が変わります。たとえば I usually walk to school. と I usually walked to school when I was young. では時制が異なります。したがって、頻度副詞そのものではなく、反復・習慣が属する時間を基準に時制を判断する③が正解です。
- (41) 正解②: 出来事・変化が成立するまでの途中の段階[解説] die・begin・finish などの瞬間動詞は、本来、一瞬で成立するととらえられる出来事・状態変化を表します。これを進行形にすると、その一瞬の出来事そのものが長時間続

くのではなく、出来事の成立に向かう過程を表します。たとえば The patient is dying. は「患者は死にかけている」と、死ぬという変化が成立する途中であることを示します。したがって、瞬間動詞＋進行形＝出来事・変化が成立するまでの途中の段階と理解します。

(42) 正解③:現在完了[解説]never・ever・once・twice・～ times などを用いて、現在までを範囲とする経験の有無・回数を表す場合は現在完了を用います。たとえば I have visited London twice. は「これまでにロンドンを2回訪れたことがある」という意味です。一方、I visited London twice last year. なら、終了した過去の期間内の回数なので過去形を用います。したがって、現在までの経験・回数＝現在完了／過去の特定期間内の回数＝過去形と区別します。

(43) 正解①:have＋過去分詞[解説]know・have・be などの状態動詞は、原則として進行形にせず、現在完了によって状態の継続を表します。たとえば I have known him for ten years. は「私は10年間ずっと彼を知っている」という意味になります。この場合、10年間という期間が過去から現在まで続き、「知っている」という状態も現在まで継続しています。したがって、状態動詞＋for＋現在までの継続＝have＋過去分詞が基本です。

(44) 正解③:study, cook, swim, write[解説]動作動詞とは、人や物が時間の中で行う具体的な動作・行為を表す動詞です。study「勉強する」、cook「料理する」、swim「泳ぐ」、write「書く」は、いずれも時間的な幅をもつ動作を表します。一方、know・belong・resemble・be などは、具体的な動作ではなく認識・所属・類似・状態などを表します。したがって、動作動詞だけで構成されている③ study, cook, swim, write が正解です。

(45) 正解②:現在完了系[解説]How long ～? で、過去に始まった状態・動作が現在までどのくらい続いているかを尋ねる場合は現在完了系を用います。状態動詞なら How long have you known him? のように、現在完了を用いるのが基本です。動作動詞の継続なら How long have you been studying English? のように、現在完了進行形を用いることがあります。したがって、過去から現在までの継続期間を尋ねる How long ～?＝現在完了系と整理します。

(46) 正解②:現在完了[解説]just「たった今」を用いて、ある動作がごく最近完了し、その完了を現在との関係からとらえる場合は現在完了を用います。たとえば I have just finished my homework. は「私はたった今宿題を終えた」という意味になります。現在完了を用いることで、単なる過去の出来事ではなく、その

出来事の完了が現在に近接していることを表します。したがって、本教材では just＋現在との関係をもつ直前の完了＝現在完了を基本として扱います。

- (47) 正解①: have gone to は「結果」、have been to は「経験」[解説] have gone to ～ は「～へ行ってしまった」という意味で、移動した結果として現在その人がここにいることを表します。これは現在完了の結果用法として考えることができ、過去に行ったという出来事の結果が現在にも残っています。一方、have been to ～ は「～へ行ったことがある」という意味で、現在までの訪問経験を表すのが基本です。したがって、have gone to＝結果／have been to＝経験という対応を押さえておきます。
- (48) 正解②: 過去形[解説] yesterday は、現在とは切り離された「昨日」という終了した過去の特定時を表す表現です。そのため、過去の出来事を現在との関係からとらえる現在完了ではなく、原則として過去形を用います。たとえば I saw him yesterday. は正しいですが、I have seen him yesterday. は標準的には使いません。したがって、yesterday・last week・～ ago などの過去の特定時 → 原則として過去形と整理します。
- (49) 正解①: 時間的な幅をもつ動作・行為を表す動詞[解説] 動作動詞は、study・run・work・write など、時間の中で行われる具体的な動作・行為を表します。これらは動作を時間的な幅をもつものとしてとらえられるため、is studying / was running のように進行形にできます。一方、know・belong などは状態動詞、arrive・die などは出来事の成立点を表す瞬間動詞に分類されます。したがって、動作動詞＝時間的な幅をもつ動作・行為を表す動詞と理解します。
- (50) 正解②: 現在までなら現在完了、終了した過去の期間なら過去形[解説] once・twice・three times などの回数表現そのものが時制を決定するわけではありません。I have visited Kyoto three times. なら、現在までを範囲として回数を数えているため現在完了を用います。一方、I visited Kyoto three times last year. なら、終了した過去の期間内の回数なので過去形を用います。したがって、回数を数える時間の範囲が現在を含むか、過去で終了しているかが判断基準です。
- (51) 正解②: 瞬間的な出来事・変化が成立するまでの途中の段階[解説] 瞬間動詞を進行形にしても、本来一瞬で成立する出来事そのものが長時間継続するわけではありません。進行形にすることで、その出来事が成立する直前・途中の過程や、成立に向かって進んでいる変化を表します。たとえば The train is arriving. は「列車が到着しつつある」と、到着という出来事に至る過程を表し

ます。したがって、瞬間動詞＋進行形＝瞬間的な出来事が成立するまでの途中の段階と考えます。

- (52) 正解③:過去形[解説]last week / last year / last Sunday などの〈last＋時〉は、終了した過去の特定期間・時点を表します。そのため、過去の出来事を現在との関係からとらえる現在完了ではなく、原則として過去形を用います。たとえば I visited Kyoto last year. は正しいですが、I have visited Kyoto last year. とはしません。したがって、last＋時を表す語句＝終了した過去の特定時 → 過去形と整理します。
- (53) 正解②:状態動詞は have＋過去分詞、動作動詞は have been＋V-ing [解説]現在までの継続を表す場合でも、動詞が状態を表すか、継続する動作を表すかによって基本形が異なります。know・be などの状態動詞なら、I have known him since 2020. のように現在完了を用います。study・work などの継続中の動作なら、I have been studying since April. のように現在完了進行形が基本です。したがって、状態の継続＝have＋過去分詞／動作の継続＝have been＋V-ing と整理します。
- (54) 正解②:現在の移動に加えて、予定・手配された近い未来も表す[解説]go・come・leave・arrive などの往来発着動詞は、現在進行形で現在進行中の移動を表すことができます。さらに I am leaving tomorrow. のように、発話時点ですでに予定・手配されている近い未来を表すこともあります。この場合、未来の内容を表していても必ず will を用いるわけではなく、現在進行形によって予定を表しています。したがって、往来発着動詞の現在進行形＝現在の移動／予定された近未来の両方が可能です。
- (55) 正解③:現在までの継続なら現在完了系、普段の期間なら現在形[解説]How long ～? という表現だけを見て、機械的に現在完了を選ぶことはできません。How long have you lived here? なら、過去から現在までの継続期間を尋ねるため現在完了を用います。一方、How long does it take? なら、普段の所要時間を尋ねているため現在形を用います。したがって、「今までどのくらい」＝現在完了系／「普段どのくらい」＝現在形と区別します。
- (56) 正解①:現在形[解説]study・work・play などの動作動詞で、現在の習慣・反復を表す場合は現在形を用いるのが基本です。usually・often・sometimes・every day などは、現在の習慣・反復を示す手掛かりとしてよく用いられます。たとえば I study English every day. は「私は毎日英語を勉強する」という現在の習慣を表しています。したがって、現在の習慣・反復＝現在

形／現在の一時的な動作＝現在進行形と区別します。

- (57) 正解②: yet は疑問文・否定文、already は肯定文が基本[解説] yet は現在完了とともに、疑問文では「もう」、否定文では「まだ」という意味で用いるのが基本です。Have you finished yet? / I haven't finished yet. のように用い、yet は通常文末に置かれます。一方、already「すでに・もう」は肯定文で用いることが多く、I have already finished. のように表します。したがって、基本的には yet＝疑問文・否定文／already＝肯定文と整理します。
- (58) 正解①: in＝経過後／for＝期間の長さ／during＝特定の期間・出来事の間[解説] in＋期間は in three days「3 日後に」のように、ある時間が経過した後の時点を表します。for＋期間は for three days「3 日間」のように、動作・状態が続く期間の長さを表します。during は during the summer / during the meeting のように、ある特定の期間・出来事の間を表します。したがって、in＝経過後／for＝期間の長さ／during＝特定の期間・出来事の間と区別します。